

妊産婦の QOL と親族サポートとの関連性

ノハラ マリ ミヤギ シゲジ
野原 真理* 宮城 重二^{2*}

目的 本研究では、妊産婦に対する親族サポートの実態を確認し、妊産婦の QOL と親族サポートとの関連性を明らかにする。

方法 都心にある病院産科の母親学級に参加した妊婦362人を対象に自己記入式質問紙を配布し、妊娠後期・生後1か月・生後6か月（以下妊娠育児3時期）に郵送法にて調査した。有効回答を得た151人を解析した。調査内容は、属性、親族サポート、育児、健康状態、QOLである。QOLに関してはオリジナルスケールを使用した。分析方法としては、特に QOL 等の要因分析については、パスモデルによる重回帰分析を行った。

結果 1) 夫のサポートは妊娠育児3時期を通して徐々に高まり、親のサポートは生後1か月で最も高かった。しかも、親族サポートが夫や親の協働の中で進められていた。

2) 親族サポートを4類型化し、タイプI（夫・親とも高得点群）の割合は妊娠後期より出産後に増え、逆に、タイプIV（夫・親とも低得点群）は減る。しかも、タイプIではタイプIVに比べて、妊娠育児3時期において、育児要因、健康状態、QOLの平均得点が高かった。

3) QOLのオリジナルスケールは因子分析をした結果、第1因子（心理ポジティブ因子）、第2因子（物的生活因子）、第3因子（日常生活因子）が抽出・命名された。

4) QOLの3因子に対する要因分析の結果、心理ポジティブ因子では、妊娠育児3時期を通して、夫サポートが、物的生活因子では、妊娠後期、生後一か月で夫サポートが、日常生活因子では、生後6か月に夫サポートが強い影響要因となる。

結論 妊産婦への親族サポートの存在とその意義が実証され、しかも、親族サポートと妊産婦の QOL との関わりが確認された。良好な親族サポートが維持されれば、妊産婦の育児、健康状態、QOL も良好であることが示された。

Key words : 妊産婦, 育児, QOL, 親族サポート

* つくば国際大学医療保健学部看護学科

^{2*} 女子栄養大学保健管理学研究室

連絡先：〒300-0051 茨城県土浦市真鍋 6-8-33

つくば国際大学医療保健学部看護学科 野原真理